

乱暴な子供



出席者

松村 康平
吉野 弘子
平井 信義
津守 眞子
村瀬 祥子
及川 泰介
水原 泰介

(発言順)

どこの幼稚園でも、色々の問題児といわれる様な子供があるのですが、今日はこれらの子供のケースを取り上げて、その解決を如何に計ったらよからうかとの意図で、こゝに、或る乱暴な子供について、実際その子供を指導していられる吉野先生、村瀬先生の二人の先生から、先づその子供の家庭、性質、知能検査の結果、問題点等のいろいろな角度から検討していただき、それを各先生方に診断していただくことにしましょう。

問題

松村 では出来るだけ詳しく話していただきたいのですが、その子の家庭は――

吉野 その子供というのは、満六才の男の子ですが家庭というのは、中流サラリーマンの家庭と云えるでしょう。御両親の外に妹さん二人、お母さまが勤めに行つてらっしゃり

その外に十五、六才の女中さんがいます。松村 父母の学歴と云いましうか、教育程度は――

吉野 お父さまは、某大学卒で、お母さまは、或る女専を卒業されていて、インテリ層なのです。

松村 その子供の知能指数は――
吉野 一三四です。

松村 体の方は大丈夫なのですか――
吉野 え、丈夫でまだ一日も休んでおりません。

松村 ではこの子供に問題があるとお感じになられたのは、何時頃からののですか――

吉野 入園のテストの時からです。面接のとき、全然落ち付きというものがなく、一言何か聞いても、室中かけ廻つてしまふと云つた様でした。

平井 一番目につく様なことは、どんなことですか――

吉野 乱暴なのです。そしてそれが危険なともなつておりまして、大きな石や、積木を投げるのです。それにもう一つは清潔感が無いのです。

津守 衣服はどうですか——

吉野 衣服ですか——衣服もそうですし、人がうがいをした水で手を洗ったりしまして平気ですし、したがって、人につばをはきかけても、なんとも思っていないのです。それに言葉なども全々乱暴なのです。

平井 どんな言葉をつかいますか。

吉野 この野郎とか、おまえ、おれっち、とか、どこで覚えて来たかと思われる様な言葉です。

津守 他の子供は幼稚園でそんな言葉を使いますか。

吉野 殆んど使いません。

松村 入園してから現在まで何ヶ月ぐらいたつのですか——

吉野 八ヶ月です。満六才なのです——

松村 その落ちつかないというのは、入園してからずっと一貫して変わりませんか。

吉野 はあ、この頃少しは落ちついて来ましたが……

津守 まあ、乱暴と云ってもよくわかりませんが、例えばどんな……

吉野 原因というのは別にないと思います。が、たいてい発作的なのです。

平井 男の子にですか。女の子にですか——

吉野 大抵男の子にですが、あまり区別をしません。で隣りにすわることをどの子もいやがっています。したがってきまっただお友達もないのです。一番驚いたことは、トンネルと云って、直径一米位の土管があるので、その上にどうして運んだものか、大人の頭ぐらいの大きな石を運んであって、その下を通る子供に投げ落すのです。別に喧嘩したというのではないのですが、他人の遊びを破壊しようとするのでしょうか——全く原因というものがわからないことが多いのです。

でも幸いにその時は石が当らなかつたのですが、そのクラスの子供たちは、皆驚いていた様でした。

平井 今迄同様なことで危害を加えたことがあるのですか——

吉野 お互いに鼻血を出したり……そして積木などを投げたりしますので……でも殆んど当たったことはありませんが……

村瀬 積木など投げる場合でも、別に友達に投げ様としてではないのです……でも乱暴に扱って投げますのが……。

吉野 別に目的があつてするのではなくて

たゞめちやくちやな行為をするのですね。

津守 お集りの時の様な、集団行動の時は——。

吉野 集るには集まりますが、椅子に真直ぐに坐らないで、落ちつかず、常に体を動かしていますので注意しても聞かないのです。そしてお友達に云われると、余計意地になつてしまふ時があるので……。

長所及びその他の特性

及川 その子供の長所と思われることは何ですか。

吉野 或る一つ事をやり出して、気が向けば非常に良くやり独創性があると思います。他の人がやらないことでも、自分は一生懸命やります。でも、ほめるといけないのです。室中暴れ出してしまふのです。

松村 では、この子の良いところがなにかありませんか。

吉野 それは、むらがあります。小さい組のお子さんに対しては、お仕事で自分が知っている時など、親切にその仕事を手伝ってやったりするのです。

津守 一つ事を始めると一生懸命やると云

われましたが、その例はありますか——

吉野 例えば、玩具屋さんをしたときですが、電車を作るのに、そのパンタグラフを作るのに、とても熱心に、工夫してやっていたことがあります。また絵を画くときなど、自分の好きなものだとよく画くのですが、気に入らないときだと殆んどい、加減にするので

松村 うたはどうです。

吉野 リズムが全々とれないので、歌は調子はづれの大きな声なのです。音楽リズムは嫌いなので、こんな時一番落ちつかなく、ひどいのです。並んで先頭にしても、中にしてもまた終りの方にしても、騒いでめちゃくちゃにしてしまうのです。

平井 そういう時の子供の顔の表情は、又は目の——

吉野 少し興奮している様な気がします。

村瀬 自分でふざけた時、皆の注目を受ける時は、少しは嬉しそうなのです。皆がスキップしていたりする時、自分だけが寝ころんだり、高く飛びはねたりして皆を笑わせる時があります。

平井 ふざけるのは、そんなに上手なので

すか。

吉野 いえ上手という程ではないんです。

松村 友達はい——。

吉野 今決つた子がありません。席をきめると一週間のたぬうちに、隣の席になったお子さんの親から苦情が来ます。(—笑—)物を乱雑にしておき、クレヨンなどもすぐ折ってしまいます。そんな風ですので、クレヨン箱の名前の貼紙などすぐはがしてしまいます。それから一度劇をやったことがあります。それは「お月見」といって、兎のお面をかぶって、兎になった女の子達のことを——兎を喰べてしまふ——と云って騒ぎ立てたりしました。そして劇に自分が出たりする時なども、そのセリフにないことを云ってしまつて——。

家庭と幼稚園の指導

松村 ではこの辺で、今度はその子供に対して、どういふ風に幼稚園で指導なさつたか。又、その子のお母さまから伺つたことから、家庭ではどうだったか話して頂きましょう。

吉野 お母さまは或る短期大学の被服の先生をしていらつしやつて、月曜日と土曜日と

だけ学校がお休みですが、一学期のときお母さまによくお伺ひしたところ、家ではすでにサジを投げたと、涙を出されてしまわれたことがあります。お父さまはいくらか厳格なのですが、はじめの家庭状況調査表に、家では放任主義、幼稚園への希望は厳格にして下さいとありました。——何と云つても馬耳東風なのです——とお母さまは云つていらつしやるのです。たゞ妹さんの面倒はよくみるらしく、一緒に踏切りを渡る時も、手を引いてやり左右をよく見てから渡ると云うのです。ですから注意力が全々ないとは、云えないと思うのですが……。

そして、助手の先生が或る日その子を抱いてやったことがあるんです。そしたら——僕を抱いてくれたんだね——と云つて、とても喜んだことがあるのです。だから家庭ではあまり抱いてやると云うことも無いのではないかと思われるんですね——。

及川 食事の時はどうですか——

吉野 御飯は一生懸命食べます。でも廻りにきたなくこぼすのですよ。始末するということが解らないのですね——

及川 身体の方は？ 發育状態は如何です

か。

吉野 よい方です。

平井 生活史というか、今迄のその家庭歴
というようなものもわかりますか。

吉野 そういう事は余りわかりません。最
初四国にいられたそうですが、その頃は親の
愛情も充分にかけてやっただけです。

平井 お父さんはどんな方ですか。

吉野 お逢いしたことはありませんが、話
によると厳格だそうですね。

津守 もっと話していたら、かかないとまだよ
く解りませんが、どうしても家庭に問題があ
りそうですね。

水原 お母さまはどんな感じの方ですか。

吉野 身体の大きな粗野な人です。

平井 お父さんとお母さんの仲は……。

吉野 さあ……(笑)

津守 家ほどの辺ですか。環境は——。

吉野 Yというところで、電車通りのそば
です。

平井 御きようだいはい——

吉野 三人です。すぐ下が年唄の妹さんが
いるのです。

松村 家庭の事情などまだはつきりしない

ところもありますが、そのことはこの程度と
しまして、どうですか、受持たれて以来その
子はどんな風に変つて行ったのでしょうか。
またどんな風に指導されて来ましたか。

吉野 はい、好きなものを与えと一生懸
命にやるといふ点に目をつけまして、先ず好
きなことをさせて見ようといひました。

平井 結果は——

吉野 え、多少は良くなったと思います。
例えば一学期から二学期にいたつても、靴の
上履下履を全々区別しないで、ドロ靴で部屋
に平気で上つてしまつたものが、今では漸く
それを区別する様になつたのです。私もずい
ぶんきびしく云つたものですから——。でも
私が見ているところでは良くなったのですが
やはり他の先生の時は、今でもやっぱりだめ
なのです。そして一番だめなのは、音楽リズ
ムの時なですね。今でも全々だめです。

どう解釈するか、どう指導した

らよいか

松村 そうしてみますと、個別指導された
時に効果があつたこと、それに先生との
結びつきが出て来たといひえるわけですね。

では、今度はまとめて、この子供はどんな
性質か、又その問題はどんなところにあるの
かを、こゝに心理的、医学的に綜合した子供
の姿をまとめて行つてみましょうか。

平井 でも個別指導した結果、はたして成
功したと考えられるでしょうか。

松村 それはわかりませぬね。

津守 解決はしてないと思ひますね。

平井 幼稚園で、先生が今迄その子供を観
察されてこられて、その落つているシテュ
ーションを發見なさつて、その与える面が
先生にお解りになつたのであつて、その子供
の性質が變つたとは思へない。

吉野 何か子供が行きづまつた時に、ピン
トを与えれば、よい様に思ひますよ。そ
んな点でも幾分は良くなったと思ひます。

平井 集団生活では——

吉野 友人間の關係でも、その子供は他の
子供達により統制を受けるのではないでし
よかと思ひます。

津守 自分の働き場というものが得られて
いないのだと思ひますよ。自分の興味をそ
るものを与えると、それに集中するが、そ
の他のものでは、自分の働き場が得られない

という点に原因があると思うのです。それは家庭をもっと良く調べれば、そこに何らかの原因があると思うが、恐らくは邪魔物視された事が多くはなかったかと思えます。そんなところにその子供の働き場が与えられていなかったのです。子供が両親との関係、きよらだいの関係において、その互の間に愛されたり、愛したりする関係がなかったと思うしそんな色々な点から原因があると思うのです、どうでしょうか——

水原 もう少しお尋ねしたいのですが、その子供が、最初他の幼稚園にいられたと云われますが、他の幼稚園ではどうだったのですか——

吉野 Y幼稚園に来る前も、やはりすこつたらしいのです。前の幼稚園の先生に——こんどおたくのY幼稚園に、すごい子供が行きますよ——と云われました。(笑)お母さまも、たしかにその御きようだいの中で、下のお子さんばかりに偏愛していたということもあつたと、今では後悔なさっていられるそうです。

水原 服装はどうですか——

吉野 あまりかまわない方なのです。靴も

破れても破れっぱなしなのです。

平井 お母さんや妹さんはどうですか——
吉野 別に変っていません。お母さんも他人より落ちついて、目立たない位です。

松村 どうも家庭に原因がある様ですね。でも家庭と幼稚園での態度に、あまり変化がみられない点から、この子は、かなり固い性質をもっている子供ですね。家庭にあって幼稚園にあって同じ、またいくら先生がしかつても同じというような点などから……：性格がかたいといえそうに思うのですが。お話から察して、この子は普通の子供達のような、嬉しい時嬉しいようにふるまうことを知らないのではないですか。また表現の仕方がまわりに受け入れられないのだし、また本人自身表現の仕方をあまり知らない。思い込みが強いとか、物にこだわるのではなく、自分に合うものを好むが、物を大切にしないということなど、つまり——その過程を楽しみ、その結果はどうでも良い——といった傾向を示しているのではないのでしょうか。しかし、またもう一つ、先のお話から、自分より小さな子供に対しては親切にするという点で、未だその子供に——友人を作る——という望み

は開かれていると思うのですが。

津守 友達の間心を集める表現の仕方を知らない。その為に友達関係が破壊するといったそんなところから、自分の働き場を得られないために乱暴をする。乱暴をして自分の場をそこに切り開いて求め様とするのではないのでしょうか。

及川 その子が信頼して、頼ってくると思われることはありませんでしょうか。

吉野 自分は家ではこう思われていると、根強く思っているらしい。最初私が指導にあつた時、その子だけが離れてしまつてためであつたが、最近では自分から進んで私の方に近づいて来るようなこともあるんですよ。
及川 お母さんが手一ぱいなので、せめて幼稚園の先生がその子との間を断たず、その子の気持を和ぐ様に自分の居場所をみつけてやりたいですね——

平井 やあ、非常に暖かい御意見が出ましたが、また別な見方もあると思うのですよ。家庭というものに重点をおくとすれば、これは余程家庭環境が悪いと思われるのです。もつと突込んで家庭というものを調査する必要がありますね。生活史を聞きたいが、普通の

子供と違うと思います。

松村 水原先生、どこを捉えたならよくなるでしょうか。

水原 子供同志の関係が尙むつかしいですが、これを何とか整えてやったら……と思います。

及川 近所から同じその幼稚園に来ている子供とも仲がわるいのですか。

吉野 私が一緒に入って遊べば皆も安心して遊んでいるが、私が抜けると、すぐ喧嘩になるし、実際腕力も強いのですが駄目になるのです。

及川 幼稚園位の年令だと子供自身で計画的にグループ遊びをさせる事が無理なのでですね。

水原 幼稚園によって、グループ遊びの量もぐっと違いますが、一人の子供対、一人の先生、というのが、却って子供達同志のつながりをさまたげていることもありますね。

津守 一枚の大きな紙の上に二、三人の子供で絵など画いて、共同作成などやらして見たら——そんな課題からすゝんで入れないでしょうか。

吉野 遠足に行ったときその紙芝居を作っ

たことがあります。それも二、三人で作る様になっていたのですが、その時も駄目でした。自分が人の前で話することも出来ないのです。

水原 何か協力しないと出来ない遊びがあるとい、ですね。

吉野 自分から遊びをさそう時もあるんですけど——でも、例えばジャンケンずもうをしよと自分から云い出しても、賛成者が誰れもいないと云うことになるので……、他の子供がその子は違う子供だと思っっているらしいのですね。

村瀬 でも、小さい組の子供にはやさしい気持で接し、また小さい組の子供達も、いちめられるなどとは思っていないのです。

津守 これから一ヶ月、二ヶ月なり、年少組に入れてみたらどうですか——。

松村 いや、年少組に同列で入っては駄目でしょう。何か役割をもって認められていないと——。

平井 自分の興味が保たれている場合は安定しているけれど、そうでないと小さい組に入っても駄目でしょう。

村瀬 小さい組にしていると面白いのでい、

でしよう。自分本位に或る程度なるからだと思います。

松村 思い込むと動けない子だから、立場を変えてみるのもどうでしょうかね。

平井 からの固い子だからそういう事にも応じないのではないだろうか。——

津守 社会的精薄かな……

平井 うん、私はそう思っているのです。それに「固さ」という点について、先程から考えているのですが、これ程の固さをもっている子供は、その家庭に余程の何かの固さと云うものがなければ、出てこないはずだと思うのですよ。

津守 松村 たしかにそうだと思いますね。津守 何年間か計画的に指導したら、ほど

けてくるのではないかとも思えますね。吉野 でも私は最近個別指導にばかり良い

点があるのではないと思う様になりました。例えば、その子に好きな事をかりをさせる事によって、何時までも社会性というものになれないのではないかと懸念しているのです。

そんな点で一斉保育も必要と思うのです。

松村 それは一人一人の個性を重んじながら、しかも集団指導に重きをおくといういみ

の一斉保育ですね。

吉野 そうです。

平井 家庭に原因があるとして、そちらに手をつけるか、或は社会性の精薄と見て、特別なカリキュラムをたてるか、そんなことが必要だと思えますね。

津守 しかし、その子を特殊児童として扱うという事は危険であるとも考えられる場合があるのですよ。昭和二十一年頃、私が保育していた子供に、やはりこれと同じケースの子供があったのですが、それから三年ぐらいたったら、全くなおってしまつて普通の子様におとなしくなつてしまつたのです。だからその子が将来大きく成長してゆくにづれて變つてくる場合もあるのですから……。

平井 このケースが自然発生的なものか、家族関係に原因があるか、とにかく、その家族関係をよくみることに重点をおくべきだと思ひますね。異常児という大げさになるがはみ出し易い子供と云いましょうか——。

松村 まあ将来は母親やその家庭にも目を向けなければならぬのですが、でもこれは難かしいのですね。さしあたり、現在出来ることは、その子がやりたい事を止めるよりは

やりたいことを短時間中にやらせてしまつて

その時先生もそれに入つて、一緒に遊んでやる。そしてその場の中で、これは悪いことですね。あれは良いことです。或は、あゝしてゐる時は嬉しいのねと、その時々にその子に教えてやる様にしたら良いと思ひますね。

平井 家庭ですぐにしかるといふ風であつたから、二重性があることになりませうね。

松村 しかし二重性があつても、幼稚園でよい形が出来てくれれば、頭は割によいのであるからそれでよいのではないのでしょうかね。

津守 それに責任を持たせると、より積極性が出て来るのではないのでしょうか。例えば花瓶の水をかえさせたり、当番をやらせたりして、後で皆の前でほめてやると云う様に——

及川 その様なことをしてみましたか。

吉野 え、そういう事もしたのですが……また皆の前でほめたこともありませうが、そうすると、またあばれてしまひ——。私はしからぬ主義ですが、余りひどい時は他の子供が出してくれと云うので、二、三回室外に出したことがあるのです。家では体罰を加えて下さいとおっしゃっているのですが、それまはどうも……。

平井 集団の中で一人を扱うのは難かしいが、何しろクラスが少なければ良いのですが、何しろ四十八人もいるので……。

津守 一度家庭に質問紙で質問してみたらどうでしょうか。生活史を聞くとか……。

松村 今迄話し合ひました中で、家庭調整の問題やら、またその子を特別な子として扱つて、カリキュラムを考えたと云つたことなど、いろいろと出ましたが、今度は直接その子供をこの児童研究室に連れて来ていたゞいて、もつと深くその問題を解決してゆく様に努力しましょう。

吉野 いま一番心配しているのは、そのお子さん一人のために、あとのお子さん達に与える影響は、将来非常に大きなものがあるのではないかと心配しているのですが……。実際もう他のお子さん達に与えた影響がぼつぼつ見えて来ているのですよ。言葉などは直ぐですから……。

津守 幼稚園は社会の縮図だから、やはり放任にさせないで、善悪の判断をよくしこまねばならないと思ひますね。

松村 では大部時間も経ちましたから……この辺で……どうも有難うございました。